

ライチョウ

Lagopus mutus (Montin)

キジ目ライチョウ科

石川県カテゴリー 絶滅

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

1936年以降の確実な記録はなく、1938年以降信頼できる目撃例もない。1940年代を境に絶滅したと考えられている。

形態

全長約37cm。雄は夏羽では頭から首、背にかけて黒褐色で他は白色、目の上には赤い肉冠ができる。雌では黒褐色に黄色の斑が細かく混じる。冬羽では雌雄共に全身ほぼ白色となる。

国内分布

主な生息地は北アルプス、中央アルプス、南アルプス、妙高山塊など。駒ヶ岳、ハケ岳、蓼科山などでは絶滅したと考えられている。

県内分布

白山の高山帯に分布していたが絶滅。

生態

高山のハイマツ群落に繁殖する。ハイマツの根元などに営巣し、1腹5～6卵を生む。繁殖期は5月中旬から7月上旬。主に植物質を食べ、若芽、果実、若根、種子などの他、昆虫類も食べる。

生息地の条件

おおむね標高2400m以上の高山帯で、ハイマツ群落があること。

生存の危機

登山者、観光客の増加によって起こる高山帯の環境汚染（ゴミ、糞尿）の結果、病気、寄生虫、天敵などの増加、また登山道の開発によるハイマツ群落の分断、生息地の減少。（A, C）

特記事項

国内希少野生動植物種、国指定特別天然記念物。



写真提供者：石川県立自然史資料館

分布図はありません。